

史跡めぐり 久米田寺(池尻町)

久米田寺は奈良時代に僧行基が開いたと伝え、市内でも有数の古い由緒をもつ寺院です。久米田寺はその門前に広がる久米田池(これも行基が築いたと伝えられています)の管理をする寺として建立されました。現在は真言宗に属していますが、中世までは、真言・華嚴・律三宗兼学の寺院として全国から仏教の奥義を学ぼうとする学僧が集り、修行していました。



↑ 久米田寺

このような古い由緒をもつ寺院ですから、仏教美術や古文書など多くの寺宝も伝えられています。そのうち国の重要文化財に指定されているものだけでも、「絹本着色星曼荼羅図」(平安後期)、「絹本着色仁王経曼荼羅図」(平安後期)、「絹本着色安東蓮聖像」(鎌倉後期)、「久米田寺文書」(鎌倉～南北朝期)、「大塔宮令旨」(南北朝期)、「楠家文書」(南北朝期)、「北畠覚空書状」(南北朝期)の計7件があります。岸和田市内では、国の重要文化財の指定を受けている資料は、建造物を除くと、この他に岸城神社所蔵の「刀」(鎌倉時代)1点があるのみですから、いかに久米田寺が文化財の宝庫であるかがわかりいただけるでしょう。

現在、久米田寺では多宝塔の建立工事が行われていますが、これは南北朝時代に、足利尊氏が戦没者等の供養のために各国に一基ずつ建立させた利生塔が、和泉国では久米田寺に築かれたという史実に基いています。

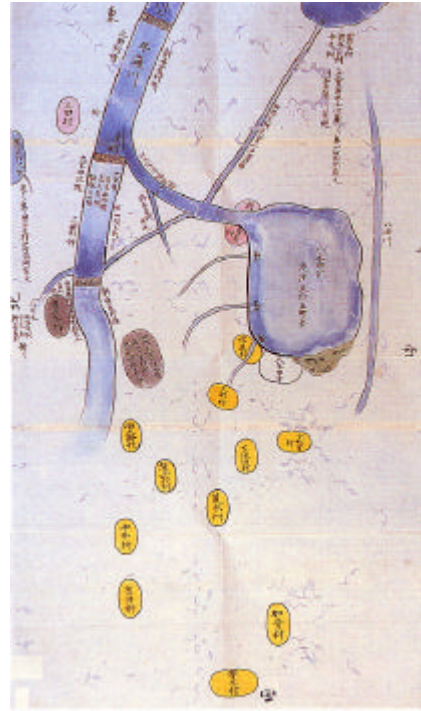
久米田寺はこのように平安後期～室町期の美術・歴史資料が豊富なことで全国的によく知られた寺院です。なお、郷土資料館では平成11年に久米田寺の寺宝を展示し、図録「久米田寺の歴史と美術 - 仏画と中世文書を中心に」を刊行しました。まだ若干残部がありますので、ご希望の方はお申し込みください(1部1000円)。

郷土資料館の資料から

久米田池水利絵図

久米田池は上記のように奈良時代に行基によって築かれたと伝えられています。中世以前は久米田寺がその管理を行っていたようですが、中世後期以後は、池の水利権をもつ12ヶ村が共同でその維持管理を行うようになりました。この共同管理組織を池郷と言います。

池郷では水の分配方法や灌漑施設の修繕費用の負担方法などが厳格に定められ、その秩序維持に努めていましたが、農業社会では水利の確保は生死にかかわる重要な問題ですので、旱魃の年などは秩序を破る行為に出る者も少なくありませんでした。こうして水争いが池郷の村同志で、あるいは池郷と他の村との間で度々起こり、裁判となる場合もしばしばでした。これらの水利絵図の多くはこうした水争いの際に証拠として作成された絵図です。そこからは、限り有る水資源の確保に命がけで尽力した先人たちの苦労を読み取ることができるでしょう。



↑ 久米田池水利絵図

山中吾朗 郷土資料館

昆虫を研究すること

あまり知られていないかもしれませんが、私たち博物館学芸員の仕事の一つは研究することです。自然資料館のような自然系博物館では、自然に関するさまざまなものを対象とし、学芸員はそれぞれの専門分野について研究活動を行っています。

私の場合だと、専門は「昆虫」です。でも、あまり生物になじみのない普通の人には、昆虫の研究といっても実際に何をやっているのかわからないことでしょう。虫好きの人の一般的なイメージは、日々野山を飛び回っては虫取り網を振り回し、家ではきれいなチョウの標本を手にとり「ニンマリ...」という、ちょっとマニアックなものでしょうから、仕事で虫を調べているなどといっても、ほとんど道楽が仕事になったように思えるかもしれません。

昆虫を研究する学問のことを昆虫学といい、英語では「entomology」とよびます。動物学の一つですが、脊椎動物とは分類的に離れていることから、区別して扱われることが多くなっています。同様に、昆虫に近い仲間のクモやダニなども、学問としては分けられることが多いのですが、いずれにせよ、それらを構成する個別分野としての「生態学」や「分類学」などは、動物学全般について共通のもので、手法や内容は大きく変わりません。

昆虫学は、一般に「基礎昆虫学」と「応用昆虫学」に大別され、前者が昆虫の基礎的諸問題を扱うのに対し、後者は人間との利害関係から昆虫の諸問題を扱います。基礎と

応用は互いに密接な関係にあり、両者はいわば車の両輪をなすものだといわれています。基礎昆虫学には昆虫分類学、昆虫形態学、昆虫生理学、昆虫生態学、昆虫遺伝学などの分野がありますが、近年は昆虫生化学を昆虫生理学から分離する場合があります、昆虫行動学も独立した分野とみなすことが多くなってきました。一方、応用昆虫学は対象となる昆虫と各産業・社会構造との関係から、農業昆虫学、森林昆虫学、衛生昆虫学に分けられるのが普通です。



このように、昆虫は膨大な種数に分化し、人間との関わりが深いものが多いため、昆虫学については、構成する分野がとくに多いのが特徴です。最先端の科学に思える遺伝学も、実際に扱っているのは「ショウジョウバエ」であることが多く、この場合は広い意味での昆虫学に含まれます。もっとも、当の遺伝学者にとっては、「虫の研究をやっている」などという意識はほとんどないのかもしれませんが...

日本における初期の昆虫学は、応用昆虫学の色彩が濃いものでした。現在でも大学の「昆虫学研究室」あるいは「昆虫学講座」は、すべて農学部 zu 置かれており、国や地方自治体の農業に関する試験研究機関などは、まさに応用昆虫学のために作られたようなものです。もっとも「応用」というのは、あくまで対象とするものが害虫や益虫であること、あるいは手法が害虫の研究に役立つということが共通点で、その本質は基礎昆虫学と異なることはありません。最近 は 農 林 業 が 衰 退 傾 向 に あ る 一 方、環 境 問 題 が 重 視 さ れ る よ う に な り、農学系の研究機関も、これまで以上に基礎的な分野を扱うことが多くなっています。

ちなみに、自然系博物館の研究で、ほかと少し違うところは、「分類学」を重視してきたことです。これは昆虫学に限らずいえることで、博物館における研究が、そもそも集積された資料を分類・整理することから始まったことによるのでしょう。分類学は、博物館の研究活動の根幹に位置するもので、現在でも学芸員の多くは分類学者が占めています。もっとも最近では、博物館の普及活動や展示面に生態学的な要素がどんどん増えつつあるようです。そのために、生態学の知識を持つ学芸員を雇うことも多くなりました。かくいう私も、大学で行っていたのは昆虫の生態の研究でした。

さて、こうして昆虫学の話題をつらつらと書き連ねてしまいました。子どもの学習という点から見ると、こうした話題がすぐに関係するわけではなく、その意味ではとりとめのない話になってしまったかもしれません。ただ強調しておきたいのは、昆虫一つを取り上げるだけでも、これだけの切り口があるということです。そして、学校で行うようなほんの些細な観察活動も、そのいずれかに当てはめることができるはずです。近所で採ってきた虫の名前を調べて仲間分けすることは分類学や形態学の最初の段階ですし、チョウの幼虫の成長を観察することなど、生活史を明らかにするという生態学の一手法に他なりません。身の回りの自然に興味を持ち、疑問に思ったことを調べ、解明していくことは、われわれ

研究者が行っている研究活動と何ら変わりのないものです。ちょっとした自然観察を行うことは、結果的に子どもをさまざまな学問分野に関わらせ、自然への理解を深めさせることにつながるはずです。そしてそうした子どものほんの一部でも、さらに研究を深めてみたいと考え、いずれ後を継いで新たな研究者になってくれれば、私たちにとってこんなにうれしいことはありません。世界的な業績をあげている優秀な研究者たちの多くも、幼少時は普通の「昆虫少年」でした。私たち博物館の学芸員は、こうした活動のお手伝いのためにもいるのです。

平田慎一郎 自然資料館

○ ● INFORMATION ● ○

郷土資料館からのお知らせ 春季特別展「佐々木勇蔵コレクション 短冊優品展 - 近現代 - 」

故佐々木勇蔵氏の短冊コレクションを紹介するシリーズ第3弾。今回は、夏目漱石・正岡子規・芥川龍之介・吉川英治・大久保利通・板垣退助・竹久夢二・淡谷のり子ら明治から昭和期に活躍した名士たちの短冊約180点を展示します。

【会 期】平成15年3月20日〔木〕～5月18日〔日〕

【会 場】岸和田城天守閣1階展示室

【時 間】午前10時～午後5時(入場は4時まで)

【入場料】大人400円 / 小中学生200円 25名以上団体3割引

【休館日】月曜日(ただし4/7・4/14・5/5は開館します)

自然資料館・郷土資料館学習券、 おはやめにお使いください！

きしわだ自然資料館と市立郷土資料館(岸和田城)の学習券の使用期限が迫っています。

現在、生徒および児童の方がお持ちの学習券の使用期限は、今年3月30日(日)までですので、早

めの利用を先生方で指導していただけますよう、よろしくお願いいたします。

きしわだ自然友の会 新年度会員募集中

2002年6月より発足した「きしわだ自然友の会」は現在、会員総数約400名で、さまざまな活動が行われています。自然と親しみたい、自然のことをもっと学びたい、自然に興味のある人たちと関わりたいという思いのもと、講座や観察会、会誌「メラングエ」の発行などが活発に行われています。今年度は化石採集会や昆虫採集、ホタルの観察会など、総合学習にも役立つ催しが12回行われました。また、会員限定のメーリングリストでは、身近な自然などについての情報交換が活発に行われています。

現在、2003年度会員を募集しています。入会金は無料ですが、年会費(2,000円から)が必要です。

詳しくは、きしわだ自然資料館内友の会事務局(TEL:0724-23-8100・Email:yevgeni@mac.com)までお問い合わせ下さい。また、きしわだ自然友の会ホームページ(URL:<http://www.tcn.zaq.ne.jp/k-tomo/>)もご利用ください。

お願い [fromM] は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

sosiki/k-nature/

Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)